

平成27年度 徳島県立小松島西高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
1 基礎学力の確実な定着を図るとともに、自主的に学習しようとする習慣及び態度の育成を図る。	(1) 基礎学力の定着とともに、専門の知識・技術をの向上を図る。 [教務課]	評価指標 ①年度初め及び各学期末の学年集会において学力向上、専門知識の技術向上の意欲を持たせる。 ②長期休業中に適切な課題を与える。	評価指標による達成度 ①定期的学年集会に加え、学年の状況に応じて開催し、生徒も真剣に聞くことができた。 ②課題まとめプリントを作成し、自主的な家庭学習の意識付けとなった。	総合評価 (評定) B (所見) ・基礎学力の定着のため、学校での授業時数の確保とわかる授業を実施しているが、加えて生徒の家庭学習習慣の確立が求められる。授業時数の確保については、大きな行事や暦の関係もあり、まだ達成できていない。年度末に向けて努力していきたい。 ・欠点数の減少については、1学期非常に多かったが、担任、学年主任を交えての本人、保護者との面談により、徐々に欠点数が減少しつつある。	○家庭学習時間の確保について、対策を検討してほしい。 ○各教科担任が授業運営を工夫し、生徒に予習習慣をつける取組を行うことにより、家庭学習時間を確保する。
		活動計画 ①年間学習指導計画に基づいた授業を実施し、各科目の授業時間を昨年より5%多く確保する。 ②各学期末考査での欠点数を、昨年度同学期末より5%以上減少させる。	活動計画の実施状況 ①4月8日から12月8日の期間では前年度比-2.6%となった。期末考査後に授業を多く計画し、確保に努めている。 ②各学期末の欠点数は1学期末は50%増加、2学期末は5.5%減少。		
		評価指標 ①公開・研究授業を年1回以上実施する。 ②授業見学を一人3回以上実施し、授業評価シートを提出する。 ③教科会を年1回以上実施する。	評価指標による達成度 ①100%実施。 ②授業見学は、1回以上の実施となった。 ③100%実施。		
活動計画 ①校内公開・研究授業週間を設定し、公開・研究授業を実施する。 ②相互授業見学を行い、学習指導方法や学習評価および教育課程についての研究に努める。 ③各教科会で指導方法等を研究し、生徒の実態に即した計画的な指導法と評価方法を確立し、授業改善や学力向上を図る。	活動計画の実施状況 ①校内公開授業週間を11月9日から13日まで設定し、公開授業を実施した。 ②授業見学を公開授業や県教委訪問の際の研究授業で実施し、授業評価シートの提出を実施した。提出率87%であった。 ③教科会を研究授業や公開授業のあとに実施し、各先生方からの意見交換を行った。				
評価指標 ①年3回家庭学習時間調査を実施する。家庭学習時間が30分以上の生徒を前年度より増加させる。 ＜1学年＞ ①課題テスト前の学習時間調査の満足度が90%を目指す。 ②朝の5分間学習を推進し、学習への動機づけや時間を守ることの大切さを定着させる。 ＜2学年＞ 毎朝のSHRで5分間学習を行う。 ＜3学年＞ 1学期は50回、2学期は60回、朝の時間を利用して、一般常識を身につけさせる。	評価指標による達成度 ①第1回の家庭学習時間調査の結果では、家庭学習時間が30分以上の生徒は1~2%減少しており、目標は達成されていない。 ＜1学年＞ ①満足度 90% ②実施率 100% ＜2学年＞ 実施率 100% ＜3学年＞ 実施率 1学期 82% 2学期 45%	総合評価 (評定) B (所見) ・家庭学習時間調査の目的や調査期間・調査方法について再考する必要があると思われる。 ＜1学年＞ ・家庭学習の習慣や時間を守りこつこつと辛抱強く取り組む姿勢は、形成しつつある。大事なことは、自ら学ぶ意欲を習得させることと感じる。 ＜2学年＞ ・習慣化しているものの取り組む姿勢に差が生じている。書き写しは次年度の履歴書の作成を想定し、3学期からは横書き ・自己アピール文に変えた。専門科目は全科ともに熱心に取り組んだ。 ＜3学年＞ ・内容は一般常識を中心に扱った。主	○部活動をしている生徒の家庭学習時間の確保の方法など検討して、両立ができるような工夫を考えてほしい。 ○家庭学習時間調査が形骸化しており、学力の定義や調査期間の変更などを再考したい。 ＜1学年＞ ・意欲的・自主的な学習習慣を定着させるには、日々提出を義務づけ、評価を返すという義務教育的な手法が適切と感じる。投げっぱなしの宿題に陥らず、評価を返して生徒に満足と自信を味合わせたい。 ＜2学年＞ ・朝の5分間学習で、1学期は進路決定への足がかりになるように、その後は社会で必要な教養を身につける等、時期によって内容を変え、意欲的に取り組めるようにする。 ＜3学年＞ ・登校後の時間を利用して、27年度と同じように就職試験対応		
活動計画 ①全校集会や学年集会で学習習慣を確立することの重要性について話をする。ホームルーム等で進路情報を提供する。各学期、定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、その結果を職員で共有し、前回と比較したグラフを教室掲示し、生徒の自主学習の動機	活動計画の実施状況 ①本年度については第1学期中間考査前と第2学期末考査前の2回家庭学習時間調査を実施した。学年末考査前に3回目を実施予定である。				

		付けを図る。		に就職試験対応を目標に実施したため、生徒達は真剣に取り組んでいた。2学期中間考査前日まで実施したが、それ以降の取組について考える必要がある。	として一般常識の内容で取り組むことがよいと思われる。2学期中旬以降は内容を充実したもので継続し、学習習慣を最後まで身につけさせる。
(4) 各種検査や学力養成のための試験等を実施し、生きる力を養う。 〔進路課〕	評価指標	①希望者を対象に進学・就職補習（5月～随時）を計画・実施する。	評価指標による達成度 ①進学・就職補習については、希望者に対して、予定の時期と回数で実施できた。就職補習については参加者が10名であり昨年より少なかった。 達成率100%	総合評価 (評定) A (所見) ・進学・就職補習については参加者が少ない。一方、個々の進路に合わせ、個別で補習等を行うケースもあった。生徒の進路等により適した内容を実施できるよう検討する必要がある。	○進学就職等の補習により多くの生徒が参加できるよう取組を工夫継続してほしい。 ○就職・進学とも進路分野ごとに対応した補習計画を検討する。 ○全校集会や、各HRでの個人面談を通して、進路補習への参加を呼びかける。
	活動計画	②1年次に生徒理解検査、2年次に職業適性検査、3年次にクレペリン検査を実施する。	②生徒理解検査・適性検査についても予定通り実施した。未受験1名 達成率99.8%		
(5) 図書室の利用を拡大し貸出冊数の増加を図るとともに、幅広くさまざまな分野の図書に親しみ、充実した読書経験を持てるようにする。 〔図書研究課〕	評価指標	①図書委員会を各学期2回実施する。	評価指標による達成度 ①達成度 100% 各学期2回の図書委員会を行った。	総合評価 (評定) A (所見) ・読書ばかりでなく、教科指導等と関連した自習などの図書館利用が増えた。その結果として貸出冊数は昨年度より増えた。 ・図書館の廊下側壁面を利用して、新しい図書の広報に努めた。	○引き続き利用拡大の取組を工夫してほしい。 ○さらに、工夫を重ね、図書館の利用拡大に努めていきたい。
	活動計画	②図書館だよりを発行し、新着図書の案内をするとともに、計画的な図書の展示を行い、生徒の読書意欲を喚起する。 ③貸出冊数を前年度より増加させる。	②達成度 100% 図書館だよりを隔月発行した。 ③達成度 100% 貸出冊数は年間一人当たり3.6冊であった。		
		①図書委員が中心となって図書館の広報活動を行う。特に、図書館だよりを年8回発行する。	活動計画の実施状況 ①1学年全ホームルームに対し、オリエンテーションを行い、その後実際に1人1冊以上の貸出を行った。図書館だよりは年8回発行できた。図書委員会の出席率は常に90%以上であった。		
		②集団読書会用テキストを使ったHR読書会を年2回実施する。	②本年度は、ホームルームで集団読書会用テキストを用いた読書会を年2回、6月と10月に実施した。		
		③昨年度の生徒一人あたり貸出冊数3.1冊より増やす。	③本年度の貸出冊数は3.6冊であり、昨年度3.1冊より増えた。		

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
2 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、家庭との連携を密にし、個々の生徒への支援体制の強化及び食育の推進を図る。	(1) 学校生活全般を通じて、基本的な生活習慣の確立を図る。 〔生徒指導課〕 〔各学年〕	評価指標 ①毎月1回、全校集会を実施する。	評価指標による達成度 ①達成度は100%	総合評価 (評定) A (所見) ・学校長訓話、生徒指導課からの学校内外	○評価指標の策定については、昨年の実態を踏まえるなどして、目標となるべき数値を決定してほしい。 ○遅刻が常習化している生徒への効果的な対応策をお願いしたい。
		<1学年> 年間の遅刻率を10%以内にとどめる。	<1学年> 遅刻率0.87%で達成度100% (最小クラスが0.24%、最大が1.36%)		
		<2学年> 無断遅刻者の0人を目指す。	<2学年> 6クラス中3クラスに1～2名ずついた。		
		<3学年> 各クラス月間遅刻数をクラス人数の2%以内にするにする。	<3学年> 学年平均は1.35人でありおおむね達成できている。		
		活動計画 ①毎月初めに全校集会を実施する。ルールやマナーなど社会の規律について考える機会	①毎月初めに全校集会を実施した。学校生活や社会生活を営む上での規律		○服装・頭髪等、高校生としてふさわしい姿を身につけさせることはできているが、自転車の交通マナー等「命にかかわる」自分の行動をもっと理解させなければならない。また、朝急いで登校する自転車通学生の意識向上をはかる。 <1学年> ・次年度も朝の5分間学習を継続し、時間を守る習慣を定着させたい。

	を持ち、規則正しい生活ができるよう指導する。また、服装や頭髪について考える機会を学年別に設定する。 ②授業の開始時に服装等を点検する。	やマナーについて理解させた。その後学年別に服装・頭髪指導を行い、高校生にふさわしい身だしなみについて考える機会を持った。 ②始業号令時に身だしなみを整えさせる。	の生活における様々な話題を通じて、生徒の規範意識を高められた。 ・服装・頭髪指導は、学年別・男女別に学年担当の複数教員が立ち会い指導した。一部に指導の必要な生徒もいるが、全体的には落ち着いており、実施により着実な成果が得られている。 <1学年> ・朝の5分間学習習慣がこの成果を生んだと思われる。時間を守る大切さを定着させたと感じる。 <2学年> ・昨年と比べると連絡なく遅刻・欠席する生徒は少なくなったが、一部の生徒に固定化・常習化しつつあるので、根本的な解決を図る必要がある。 <3学年> ・大半の生徒は安定した生活を送っているが、遅刻する生徒が決まっており、常習化している。特に進路決定後、基本的な生活習慣の乱れが目立った。		<2学年> ・進路決定率 100%を目指すには、まず基本的な生活習慣の確立である。特に遅刻をしないことは、社会人の必須条件であることを理解し、社会に必要とされる人間作りをする。 <3学年> ・社会人として時間を守ることの重要性を教え、欠席・遅刻を繰り返す生徒には、面談や何らかの課題を与えるとともに、保護者に来校してもらい、主任・管理職を含めた面談を実施し、生活習慣を改善するための協力をお願いする。
(2) 常に生徒の状況を把握し、問題の早期発見に努め、組織的な指導を行うとともに、家庭、地域・関係機関との連携を密にした指導を行う。 〔生徒指導課〕	評価指標 ①年間遅刻者数を、前年より10%以上減少させる。 活動計画 ①毎朝、複数教員が3カ所の校門に立ち登校指導を行う。遅刻防止と自転車のマナー向上のための声かけを行う。 ②毎月、遅効調査を実施し、多遅刻(月5回程度)の場合は担任が保護者に連絡し、支援・協力を要請する。学校と家庭が連携をとりながら改善を目指す。 ③学年ごとに遅刻指導を実施する。	評価指標による達成度 ①年間遅刻者数は、昨年度より19.0%減少した。(12月末現在) 活動計画の実施状況 ①昼休みの校内巡視を毎朝の登校指導に変更し、生徒の遅刻防止と自転車交通マナーの向上、あいさつ運動を実施した。 ②毎月遅効調査を実施し、遅刻した生徒には学年団で連携して遅刻防止の意識向上に努めた。 ③多遅刻生徒には、家庭と連携をとりながら改善を依頼した。	総合評価 (評定) A (所見) ・全教職員が協力して遅刻防止に取り組み、前年度比(19.0%)の減少した。校内巡視を毎朝の登校指導に変更し、遅刻防止の意識は向上したが、多遅刻生徒がまだ少しいた。 また、あいさつ運動を実施することにより、朝の生活リズム「基本的な生活習慣の確立」は実践できた。	○評価のところに具体的にどのようなことをして遅刻が減少したかなどを検証してほしい。 ○学校生活全体は、落ち着いており、特に目立った問題は見当たらなかった。遅刻生徒は前年度比19.0%減少した。しかし、多遅刻生徒がまだ多くいる。大幅な遅刻ではなく、数分の遅れという生徒が多いので、「時間に遅れない」という意識を向上させなければならない。	
(3) 保健安全管理を適正に行うとともに健康安全教育の推進を図り、厚生関係の事務処理を適正に行う。 〔保健厚生課〕	評価指標 ①保健意識の向上と病気等の予防を図るための啓発活動を1回以上行う。 ②疾病予防の知識を行動に繋げるために、各種感染症予防対策を1回以上行う。 ③定期健康診断の二次検診未受診者に対する受診勧告・個別指導を1回以上行う。 ④正しい食習慣や生活習慣についての啓発活動を、1回以上実施する。 活動計画 ①生徒への保健事業を行う。 ②感染症に対する情報収集をし、情報提供及び予防・対応法についての啓発活動を1回以上行う。 ③生徒の健康診断の事務処理を適正に行う。 ④希望する生徒に対する厚生関係事務処理を適正に行う。 ⑤徳島県奨学金・日本学生支援機構による奨学金等の各種奨学金申請希望者に対する事務処理を適正に行う。 ⑥職員や生徒に対して「AEDの使用法」等の研修会を1回以上実施する。	評価指標による達成度 ①達成率 100% ②達成率 100% ③達成率 100% ④達成率 100% 活動計画の実施状況 ①生徒への各種保健事業を実施した。 ②感染症に対する情報収集をし、情報提供及び対応法についての啓発活動を1回以上行った。性教育講演会を実施し、生徒への正しい性教育を行った。生活習慣病等に対する指導を実施した。 ③生徒の健康診断の事務処理を適正に行った。 ④希望する生徒に対する厚生関係事務処理を適正に行った。 ⑤徳島県奨学金・日本学生支援機構による奨学金等の各種奨学金や申請希望者に対する事務処理をその都度適正に行った。 ⑥職員や生徒に対して「AEDの使用法」等の研修会を1回以上実施した。	総合評価 (評定) A (所見) ・各項目については、概ね活動計画のとおり実施することができた。 ・インフルエンザ対策については、その年の発生状況について、常に全国状況・地域情報に留意して、臨機応変に対応することができた。 ・各種奨学金関係の事務については、希望する各生徒に対して、より懇切丁寧な対応に心掛け実施した。 ・研修会については、その時々状況にあった効果的なものを取り入れ実施した。 ・学校保健委員会を開催し、生徒の健康課題を把握し、協議することができた。 ・生徒保健委員会を定期的に開き、健康課題に対応した内容を文化祭で展示をしたり、保健だより等を作成したりして、学校保健組織としての啓発活動を実施した。 ・衛生委員会を1回以上実施した。	○生徒への保健事業について、授業での啓発・意識付け等の取組や「AEDの使用法」研修会等は続けてほしい。 ○インフルエンザ等の感染症は、毎年、流行の時期・特徴が異なるため、常にこれらの情報に留意して、できるだけ速やかに望ましい予防対応法を探る。 ○今後も常に生徒の健康状況に留意し、臨機応変に、より望ましい対応を行う。 ○今後も健康指導・健康教育の推進のより効果的な方策を研究し、実践する。	
(4) 食物科生徒による食育リーダーピアサ	評価指標 ①食物科生徒が食育リーダーとなり、「食育便り」を年5回以上発行する。	評価指標による達成度 ①実施率100%	総合評価 (評定)	○徳島県学校食育推進研修会において、本校の取り組みを発 ○本校独自の食育の取組を今後も続けていけるように、学校	

<p>ポートを4学科連携で進め、学校全体での食育の推進を図る。</p> <p>[家庭科]</p>	<p>②年に4回のミニカフェを実施し、地域住民を対象にヘルシーで美味しい食事を提供する。</p> <p>活動計画</p> <p>①食物科生徒が「食育便り」を作成し、各クラスでプレゼンテーションを行うことによって、全校生徒の食に関する意識を高める。</p> <p>②年に4回ミニカフェを実施し、ヘルシーレシピを配布するなどして、地域住民に対して食育の活動を展開する。</p>	<p>②実施率100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①7月9月11月12月1月の計5回、「糖尿病予防」などテーマを決めて、発行しパネルにしてクラスでプレゼンテーションを実施し掲示を行った。</p> <p>②6月2回11月2月の計4回ミニカフェを実施し、テーマに合わせたヘルシー料理を地域住民に提供した。</p>	<p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①文部科学省指定「スーパー食育スクール事業」の一環として、全校生徒や地域住民に対して、食育活動を実践した。「食育便り」の発行と各クラスでのプレゼンテーションでは、食についての興味を広げ、同じ学校の生徒からレクチャーを受けることにより、生徒自身の食行動の改善及び充実に対して主体的に行動しようとする意識の高まりに影響を与えたのではと考えられる。</p> <p>②また、ミニカフェの実施においては、生活文化科も徳島の伝統文化を取り入れた食環境整備を実施し、学科連携を取り入れて地域の方々への食育を展開することができた。</p>	<p>表し高い評価を得た。</p>	<p>全体で支援していくような仕組みを考えたい。具体的には、ミニカフェ実施による地域の高齢者や小中学生への食育の啓発、食物科生徒をピアサポーターとした校内他科の生徒への食育指導を今後も続けていきたい。</p>
<p>(5)行動面や学習面で教育的支援が必要な生徒を学校全体で支えていく体制を確立し、特別支援教育を組織的・系統的に展開する。</p> <p>[教育相談・研修課]</p>	<p>評価指標</p> <p>① 教職員の特別支援教育研修を年1回以上開催する。</p> <p>②特別支援委員会を各学期1回実施する。対象生徒について、2学期末に事後報告書を提出する。</p> <p>③年間10日以上欠席者数を10%以上減少する。</p> <p>④教育相談室において、昼休みを中心に個別の教育相談活動を展開する。特に問題のある生徒など活動記録に記入する。</p> <p>⑤特別支援や不登校に関する面談や家庭訪問記録を提出する。</p> <p>活動計画</p> <p>①教職員に対し、本校の特別支援教育について説明すると共に、特別支援教育研修を実施する。</p> <p>②特別支援委員会においては、特別な支援を必要とする生徒やいじめや不登校傾向のある生徒の対策を検討し、学校全体の共通理解のもと、支援を行うとともに、対策実施後の2学期末に報告書を作成する。不登校傾向生徒は、2ヶ月続けて3日以上欠席者を対象とする。</p> <p>③教育相談室において、昼休みを中心に生徒の自由な入室を促し、個別の教育相談活動を展開し、教育相談室記録をつけ、各担当者の連携を図るとともに、いじめの早期発見に努める。</p> <p>④校内連携のために、各学年主任を中心に特別支援や不登校に関する報告書を作成いただき、課内連携を密にして、外部相談機関へとつなげていく。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①実施率100%</p> <p>②特別支援委員会の実施 100% 事後報告書の実施 100%(2学期末)</p> <p>③年間10日以上欠席者数17名で、前年度比66%減少した。(2学期末)</p> <p>④校舎耐震工事のために閉室日が多くなったが、11月よりリニューアルオープンした。</p> <p>・面談報告・家庭訪問報告 1年(0)件2年(3)件3年(1)件</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①7月7日、鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻教職実践力高度化コース教授 小坂 浩嗣氏を招いて教育相談研修を実施した。</p> <p>②特別支援委員会を6月、11月の各学期ごとに実施し、特別な支援を必要とする生徒や不登校傾向のある生徒への支援を実施した。</p> <p>③支援を必要とする生徒及びその保護者に相談支援を実施し、必要に応じて外部の専門機関へとつなげた。 (スクールカウンセラー・はなみずき)</p> <p>④耐震工事による教育相談室閉室のため、保健室へ悩みを相談に来る生徒もみられたため、継続的に相談と居場所づくり等の支援を行った。</p> <p><1学年></p> <p>・特別支援の必要な生徒に関しては、保護者との連携で改善しつつある。また、進路変更等も視野に入れた面談も実施した。</p> <p><2学年></p> <p>・学年会、教科担任会でケース会議を実施。担任・学年主任を含めた保護者面</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>・本校においては、支援の必要な生徒は顕在化している者もいれば潜在化している者もいる。今後、担任と情報交換を重ね、生徒にとって最もふさわしい支援のあり方を模索していくことや、特別支援委員会にアガってくるなど支援を必要とする生徒については、課内連携を密にして、断続的に支援を行い、外部専門機関とも連携していく必要がある。</p> <p>・2学期末で10日以上欠席は、前年度に比べて大幅に減少した。長期欠席に至る前に面談等の実施による、きめ細かな支援の成果と考える。</p>	<p>○特別な支援が必要な生徒に対する個別的な対応は大変手間がかかると考えられるが、引き続き、きめ細かい指導が求められるので継続してほしい。</p>	<p>○特別な支援を必要とする生徒への進路保障について、早期からの取組を考えていきたい。</p> <p>○引き続き学年団と連携して、年間10日以上欠席者の減少を図る。(面談報告・家庭訪問報告の充実を考える。)</p> <p>○教育相談室の利用の広報を工夫する。</p>

			談を実施 <3学年> ・事故による入院等特別な支援が必要な生徒には、保護者面談や教科会などその配慮について話し合い、支援を続けている。		
--	--	--	---	--	--

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策					
3 社会で遅く生きる力を醸成を図り、キャリア教育を充実し、進路の実現をより確かなものにする。	(1)キャリア教育を推進し、社会的・職業的自立基盤となる能力や態度を育成する。 [進路課][各学科]	評価指標 <進路課> ・早い時期での将来の目標決定を目指し、3年生年度当初の進路希望調査において未定者の割合が10%未満をめざす。	評価指標による達成度 <進路課> ・3年生年度当初の進路希望調査において未定者の割合が5%であった。 達成度100%	総合評価 (評定) <進路課> A (所見) <進路課> ・担任、進路担当者により、生徒の面談を2学年の3月から3学年の4月にかけて行い、早い時期に個々の生徒の希望の把握ができた。 ・校外での進路相談会・オープンキャンパス・インターンシップ・企業見学等への参加が増加した。参加者は教員以外の方からアドバイスを得たり、希望する仕事や学習内容を具体的に知ることができ、進路に対する意識も強くなっている。今後さらに参加できる機会や人数を増やしていきたい。	○インターンシップについて、各学科ともに、意欲的に実施先を開拓し、積極的に取り組んでほしい。 ○各種検定の合格率の向上について、積極的に対策を講じてほしい。 ○専門性を生かしたグローバル教育にも積極的に取り組んでほしい。	<進路課> ・今後も出来るだけ早い時期に進路決定し、希望の進路への準備ができるように集会やHR、個別面談などあらゆる機会をとらえて指導していきたい。 <商業科> ・新入生に対して毎週月曜日に電卓の補習を実施し、検定合格率向上につなげたい。 ・珠算にも積極的に取り組ませ、3種目1級取得者の増加につなげたい。 ・海外マーケティング事業で学んだ経験を生かし、中国語講座も基礎にしながらグローバルな視点を持たせたい。 ・検定前補習については、従来実施している簿記以外の検定についても各教科・学年で商業科として共通で行う体制を作っていきたい。 ・高校生キャリアアップ推進事業などを活用してインターンシップを積極的に実施していく。				
		<商業科> ①単元テストや確認テストを実施する。また、それに対する家庭学習課題を提示する。 ②商業に関する各種資格検定の受験を奨励し、検定合格率上昇を目指す。資格取得の意識を高め、日商検定の合格を目指す。 ③卒業時、全商検定3種目以上1級合格者の50%以上増加を目指す。 ④机上の学習を基礎にして、実際のビジネスを体験する活動に取り組む。	<商業科> ①実施率94% ②合格率は47.9% (前年度比-0.6%) 日商簿記検定2級合格者1名 ③全商検定3種目以上合格者4名 (前年度比-50%) 4種目3名 3種目1名 ④達成度100%				<食物科> ①家庭科技術検定(食物調理)の合格率を各学年それぞれ100%をめざす。 1年-4級・3級 2年-2級 3年-1級 (100%合格)	<食物科> ①家庭科技術検定(食物調理)達成率 1年-4級 100% 3級 97%(前年度比-3%) 2年-2級 100% 3年-1級 100%	<商業科> ①については、35科目中33科目で実施できており、科目の特性を考慮すると十分達成できた。 ②の合格率は昨年より0.6%減少したが、日商簿記2級の講習会を実施し、2年生にも意識付けができた。 ③については1月中旬時点で4名である。年度末までの検定の結果によって増加することが見込まれる。早い段階から検定取得の意識を高め、合格につなげる必要がある。 ④については年度当初の計画通りの活動ができた。それぞれの活動を生徒主体で進めていけるようさらに充実させていく必要がある。	<商業科> ①については、35科目中33科目で実施できており、科目の特性を考慮すると十分達成できた。 ②の合格率は昨年より0.6%減少したが、日商簿記2級の講習会を実施し、2年生にも意識付けができた。 ③については1月中旬時点で4名である。年度末までの検定の結果によって増加することが見込まれる。早い段階から検定取得の意識を高め、合格につなげる必要がある。 ④については年度当初の計画通りの活動ができた。それぞれの活動を生徒主体で進めていけるようさらに充実させていく必要がある。
		<生活文化科> ①検定の合格率について ・家庭科技術検定(被服製作)について 4・3・2級は、100%をめざす。 1級については、85%以上を目指す。 ・色彩検定について 3級合格率50%以上を目指す。	<生活文化科> ①進度表を作成し、教員や生徒自身が進捗状況を確認するとともに技術の確実な定着、向上を図る。 ・日々小テストを実施し、学習の習慣や知識の定着を図る。 被服製作4級合格率100% 色彩検定 56% 目標を達成している。				<生活文化科> ②工場見学 発熱のため1名欠席 インターンシップ 達成度100% 各種コンテストへの応募 達成度100%	<生活文化科> ①3級の合格率は昨年より3%低下した。 ②食育インストラクターの合格率は1.5%低下、技術考査については5.7%増加した。 ③知識・実技ともに基礎基本を身につけることができるよう工夫できた。 ④インターンシップや先輩の講演等で幅広い進路選択ができた。 ⑤各種コンテストへ出場し、良い成績を収めることができた。	○ミニカフェは、地域住民から大変評判が良く、毎回盛況である。多くの人に食べていただける工夫もお願いしたい。	
		<福祉科> ①介護福祉士国家試験の合格率90%以上をめざす。 ②専門科目の授業1単位35時間を確保する。	<福祉科> ①介護福祉士国家試験合格率 90.9% ②達成率100%				③実施率100%	<生活文化科> ①評価指標については予定通り実施できている。学力の定着については、朝のSHRや放課後等を活用して取り組んでいる。学習の習慣化に今後も努めたい。 ②アパレル関連企業へのインターンシップの実施や工場見学を通して進路決定や職業観や勤労観の育成を図ることができた。3年生については進路決定につなが	○服飾デザイン系高校全国大会において本校の取り組み(伝統工芸の授業・ファッションショー)を発表し高い評価を得た。	<生活文化科> ・学習の習慣、技術の確実な定着・向上を目指すし、検定の合格率向上につなげたい。 ・工場見学やインターンシップをさらに発展させた産学連携の取り組みを今後検討し、今年

<p>④日々の学習や長期休業中に適切な課題を与え、家庭学習時間調査を実施する。</p> <p>活動計画</p> <p><進路課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、企業見学、進路説明会、講演会などで具体的な目標を決定を進めるとともに、進路指導室での個別相談などを推進する。 <p><商業科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テストや確認テストを実施し、学習内容の定着を図る。課題を提示することにより、家庭学習の習慣づけを図る。 ・学習の理解度を高め、生徒それぞれが目標とする資格取得につながる補習を実施する。 ・インターンシップやアントレプレナーフェアに取り組む。 <p><食物科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①専門科目の授業1単位35時間を確保する。 ②授業内容定着のため、小テスト・実技テスト等を実施する。(考査時の専門科目の目標60点) ③各調理実習において技術の到達度の確認を実施する。技術検定は1・2年生は調理、3年生は課題研究で実施する。 ④調理関連企業へのインターンシップの実施を通して進路決定や職業観・勤労観の育成を図る。 ⑤各種コンテストに応募し、創意工夫し、技術力の向上を図る。 <p><生活文化科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①検定の実技については、授業時間を確保するとともに放課後も実施する。色彩検定や技術検定筆記については、小テストを実施し、学習の習慣づけや知識の定着を図る。 ②各学年が地域での行事やイベントに年1回参加。 <p><福祉科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護福祉士国家試験の合格率90%以上をめざす。 <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の授業1単位35時間を確保し、国家試験合格に必要な知識と技術の習得をはかる。 ・授業内容定着のため、単元テスト・確認テスト・実技テストを実施する。 ・日々の学習や長期休業中に適切な課題を与え、家庭学習時間調査を行い、その成果を課題テスト等で確認する。 ・各学年が地域での行事やイベントに年1回は参加する。 	<p>④実施率100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p><進路課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部での進学説明会やオープンキャンパスへの参加を促し、進学希望者のほとんどの者が参加できた。 ・求人があった企業への7月～8月の見学については、34名が参加し、多くの者が進路決定に繋がった。 ・進路相談室への相談を促し、個別対応を適切におこなった。 <p><商業科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元テストや確認テストを実施した。次回の予告を心がけ、課題を提示した。 ・検定受験を奨励し、検定前には放課後補習を実施した。 ・1年生全員と2・3年生課題研究選択者がはちまち狸まつりに参加、3年生課題研究選択者がボルティス公式戦プロデューサー等の活動に取り組んだ。2年生がインターンシップに参加した。 <p><食物科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①月曜日金曜日と7時間目を組み、夏休みに授業を実施することで専門科目の授業1単位35時間を確保することができた。 ②各専門科目の授業で小テストを実施し、授業内容の定着をすることが出来た。考査時の専門科目では60点を目標とし再テストを実施した。 ③技術の到達度の確認や技術検定を実施した。 ④2年生は全員・3年生は希望者のみ調理関連企業へのインターンシップを実施し進路決定や職業観・勤労観の育成を図った。 ⑤多くの各種コンテストに応募し、2次選考にも参加でき、優勝することができた。 <p><生活文化科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①各クラスで実施している。 ②ファッションショー観覧全員参加 <ol style="list-style-type: none"> 1月23日実施予定。 ・はちまち狸まつり、ファッションショー、藍染め作品販売を実施する。 ・千歳苑、ひのみね総合療育センター、松寿園、ファッションショーを実施する。 ・服デ全国大会、ファッションショーを実施する。 ・産業教育展、ファッションショー、藍染め作品販売を実施する。 <p><福祉科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①専門科目の授業1単位35時間を確保するため、1～3学年において、月・金の週2日に7校時目を実施。3年生では11月24日より月～金の週5日すべて7校時目を実施している。また期末考査等の午後にも授業実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容定着のため、単元テスト・確認テストを随時実施。また介護技術の定着のため学期に1～2回の実技テスト実施。 ・1年次より長期休業中に自宅学習の習慣を定着させるため課題を与え、確実に提出できているかHR担任がチェックし、未提出者には居残り指導を実施。 ・3年次には国家試験に向けて2学期より毎週末課題を設け自宅学習のさらなる定着を図っている。また模擬試験の実施や
--	--

った。各種コンテストに応募することにより、よい評価をいただく機会も増え、生徒達の自信や意欲の向上につながっている。地域の行事やイベントへの参加については、1・2年生の参加が課題である。

<福祉科>

- ・介護福祉士国家試験の合格率90%以上をめざすため、まずは生徒の進路決定率100%をめざした。結果として、進学者17名、就職者16名、進路決定率100%である。

○福祉科は、実習先に条件があり難しいが、新規実習先の開拓など今後も積極的に取り組んでほしい。

度以上に進路決定につなげた。い。

<福祉科>

- ・介護実習の実習施設として厚生労働省に承認されるためには様々な規程・資格要件を満たす必要があるため新規開拓は困難な状況だが、就職先として施設開拓に取り組むながら、実習受け入れに向けても検討していただけるよう取り組んでいきたい。
- ・授業時数が確保できるよう計画的に取り組む。

			結果の分析により効果的な学習計画の立案や実施を支援している。		
(2) 具体的できめ細やかな進路指導を行い、生徒の自己実現の支援を行う。 〔進路課〕〔各学年〕	<p>評価指標</p> <p><進路課> ①進学・就職補習実施担当者は各担任との連携を密にして、生徒に時機を得た適切な指導ができるように配慮する。 ②校外模試の成績等を活用し、より具体的な進路目標の決定や、実力の更なる向上につながるよう助言する。 ③各種検査を通して生徒の自己理解を図る。</p> <p><1学年> ・個人面談を各学期1回以上の実施を目指す。 <2学年> ・校内で、進路ガイダンスを実施する。 <3学年> ・大半の生徒は安定した生活を送っているが、遅刻する生徒が決まっており、常習化している。特に進路決定後、基本的生活習慣の乱れが目立った。</p> <p>活動計画</p> <p><進路課> ①随時担任と連絡をとり、生徒の相談に応じるとともに、PTA総会での進路相談や夏休みの3者面談時に希望する保護者への情報提供をする。 ②各種適性検査の結果をHR等で活用し、生徒の自己理解を図ることができた。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p><進路課> ①達成率90% ②達成率90% ③達成率90%</p> <p><1学年> 実施率100% <2学年> 実施率100% <3学年> 実施率100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p><進路課> ①随時担任と連絡をとり、生徒の相談に応じるとともに、PTA総会での進路相談や夏休みの3者面談時に希望する保護者への情報提供ができた。 ②各種適性検査の結果をHR等で活用し、生徒の自己理解を図ることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) <進路課> ・本年度の12月末時点の就職決定率は96%と昨年より9%上昇し、概ね好調であった。しかし、1、2年生に対する進路情報の提供や相談体制が十分でなく、今後改善の余地がある。 <1学年> ・1学期は全生徒に対して実施し、2学期以降は成績の芳しくない生徒や生徒指導の必要な生徒を中心として実施した。何事にも早期発見・早期対応が不可欠と感じた。 <2学年> ・1、2学期は進路決定に向けて個人懇談と三者面談を実施し、2学期後半から進路課と協力して、進路ガイダンスの内容を吟味し決定した。 <3学年> ・進路決定を目標に、本人・保護者も真剣に面談に臨んでいた。面接指導では生徒自ら、多くの先生方に練習を申し込み、取り組んでいた。2学期をとおし就職・進学希望者が、いろいろな場所で面接練習を行っていた。進路実現に向け主体的に取り組む姿勢が見られた。</p>	<p>○キャリア教育は大変重要である。進路状況は良いが、引き続き指導をお願いしたい。</p> <p><進路課> ・進学・就職だけでなく具体的な進路先まで視野に入れ、早い時期から準備ができるよう進路相談をより充実させていきたい。</p> <p><1学年> ・課題の早期発見・早期解決に向けた取り組みとして、次年度も継続していきたい。</p> <p><2学年> ・進路決定するための三者面談で、生徒・保護者にできるだけ詳しく、新しい情報を提供できるように努力する。</p> <p><3学年> ・1学期中に前年度の進路状況を元に三者面談を実施し、早めに意識させる。夏期休業中には全生徒・保護者に進路決定させ、面接練習や試験問題の対応に取り組ませる。</p>	

重点課題	重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
4 学校行事や奉仕的活動等に積極的に参加する態度を育み、地域を創生できる人材の育成を図る。	(1) 学校行事や生徒会などの活動で、生徒が自主的に活動する態度を育成する。 〔特別活動課〕〔各学年〕	<p>評価指標</p> <p>①学校評価に関するアンケートの、「学校行事が充実しており、子供は学校生活に生き生きと取り組んでいる」の問いが「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで80%以上になること。 <1学年> ・体育祭・文化祭・球技大会等学校行事に積極的に参加し、欠席者を0にする。 <2学年> ・修学旅行前に4回の全体事前学習を実施する。 <3学年> ・体育祭・文化祭・球技大会等学校行事に積極的に参加し、欠席者を0にする。</p> <p>活動計画</p> <p>①学校行事について、実施時期や内容について十分検討し、実施する。生徒会を中心として、生徒が自主的・主体的に、参加できるようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①「学校行事が充実しており、子供は学校生活に生き生きと取り組んでいる」の問いでは、保護者82%、教職員87%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。 <1学年> 達成率100% <2学年> 実施率100% 事後学習1回 <3学年> ほぼ達成できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①学校行事については、体育祭を例年9月に開催していたものを、10月に開催するように変更し、好評であった。内容についても各行事について、十分検討し、実施している。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) ・学校行事の実施時期や内容については充分検討し実施している。特に、体育祭実施時期を9月から、10月に変更できたことは、熱中症予防や天候の安定などの観点から、好評であった。 <1学年> ・高校入学後、初めて参加することもあり、最初は不安であったが、準備段階から生徒各自が役割分担を決め、個々の力に応じた配慮も生まれ、全員が積極的に参加できた。 <2学年> ・高校3年間で主要な行事の一つである修学旅行は、社会性を養う絶好の機会と捉え指導した結果、スムーズな人間関係・公共心や責任感、企画力に成長が見られた。 <3学年></p>	<p>○文化祭をもう少しオープンにして近隣の方に公開できないか。 ○文化祭の文化部の展示の工夫がほしかった。</p>	<p>○文化祭の展示を充実させる。そのためには、各科の協力が不可欠である。各科の展示を中心に文化祭の展示を充実させ、将来的には、公開化の方向も模索していきたい。</p> <p><1学年> ・愛校心の育成、仲間作りの観点から、次年度も行事の有用性を生徒たちに発信していきたい。</p> <p><2学年> ・生徒が自主的に活動できるように、文化委員の役割を確立する。</p> <p><3学年> ・集団活動をとおし、社会に出ても組織の中で協力出来る力を養わせるとともに、充実感や満足感を体験させる。</p>

			・高校生活最後の学校行事にほぼ全生徒が、積極的に参加しクラスのために力を発揮し、活躍できた。第3学年になり、協力や自分たちで考えて行動することができるようになり、成長がうかがえた。	
(2) 部活動の活性化を推進する。 〔特別活動課〕	<p>評価指標</p> <p>①学校評価に関するアンケートの、「部活動が充実しており、活発である」の問いが「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで80%以上にする。</p> <p>②部活動入部率を80%以上にする。</p> <p>活動計画</p> <p>①部活動紹介や集会等で、部活動の意義や重要性を伝達する機会を設定する。部活動顧問の適切な配置をする。</p> <p>②1年生については原則として全員入部させる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①「部活動が充実しており、活発である」の問いでは、保護者75%、教職員83%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。</p> <p>②部活動入部率は、84%となっており、80%以上とした目標を充分達成できている。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①部活動に関する集会の機会を設けて、部活動の意義や重要性を伝達するようにした。本年度は特に、部室の使用に関して、管理体制を徹底するようにした。</p> <p>②1年生については、全員部活動に入部した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>・部活動入部率については、1年生の原則全員入部が効果があり、目標を充分達成できている。</p>	<p>○県や全国の大会で良く活躍できている。今後とも頑張ってもらいたい。</p> <p>○県大会、四国大会、全国大会と少しでも上のレベルの大会や発表会に出場(出品)できるように運動部、文化部の活動を活性化させたい。</p>
(3) ボランティア活動や地域に根ざした活動などを実施する。 〔特別活動課〕	<p>評価指標</p> <p>①学校評価に関するアンケートの、「生徒会活動や各種委員会活動は活発に行なわれている」の問いが「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで80%以上にする。</p> <p>活動計画</p> <p>①奉仕的な活動についても、生徒会や、各種委員会を中心として、地域社会に貢献するような活動に積極的に参加できるようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①「生徒会活動や各種委員会活動は活発に行なわれている」の問いでは、保護者72%、教職員69%が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①奉仕的な活動についても、生徒会や、各種委員会を中心として、地域社会に貢献するような活動に積極的に参加できるようにする。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①ボランティア活動についても、JRC部、インターアクト部、生徒会、ボランティア委員会などを中心に、積極的に活動できているので、さらに多方面への活動参加を促したい。</p>	<p>○ボランティア活動では、地域の防災に関連した活動にも取り組んでほしい。</p> <p>○JRC部、インターアクト部、生徒会、ボランティア委員会などを中心に、地域のボランティア活動(防災に関連した活動も含めて)に、積極的に参加させたい。</p>
(4) 環境への関心を高め、環境問題や環境整備に自主的・主体的に取り組む態度と実践力を育成する。 〔環境教育課〕	<p>評価指標</p> <p>①全校生徒と全校教職員が積極的に清掃活動に取り組む</p> <p>②環境美化委員会を実施し、ゴミの分別や清掃の徹底推進する。</p> <p>③生徒・教職員ともに環境問題の意識を高め実践的な取り組みをする。</p> <p>活動計画</p> <p>①学年末や行事の日に大掃除を実施する。</p> <p>②紙の有効利用等の省資源活動に取り組む。資源ゴミの分別収集をし、ゴミの削減に取り組む。</p> <p>③教室や掲示板・トイレなどに電気・水の節約を呼びかけるポスターを掲示する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①普段の清掃は、積極的に清掃する人とならない人の差があるが、大掃除時は積極的に参加する生徒が多い。</p> <p>②クラスによってゴミの分別の状態に差がある。</p> <p>③環境問題の意識を高めるようポスター掲示や環境美化委員による声かけに取り組んだ。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①学年末の大掃除に加え、各種行事前、入試前、卒業式前、長期休み明けに実施した。</p> <p>②書類のシステム化や裏面利用などにより、大幅なゴミの削減ができた。プルタブやキャップの収集も各クラス実施した。</p> <p>③環境美化委員が中心となりポスターを掲示した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>・全校生徒・職員に対して十分な周知ができなかった。</p> <p>・大掃除等は意欲的に取り組んでいたが、日々の清掃に不備は点があった。特に男子トイレの使用法が悪いことがあり、清掃当番の負担が大きくなったことがあったので検討が望まれる。</p>	<p>○耐震工事が終わり、安全な教育環境がやっと整備された。引き続き、環境整備に取り組んでほしい。</p> <p>○トイレの使用法や、ゴミの分別方法など学校美化に関して、担任と連携して指導を進めていきたい。</p> <p>○環境美化に関する意識を高められるような掲示等をふやしていきたい。</p>
(5) 地域の教育力を活用し、地域創生に協力できる学校づくりに努める。 〔教務課〕〔各学科〕	<p>評価指標</p> <p>①4学科の特徴を活かした学校行事、奉仕活動等に生徒が年に1回以上参加する。</p> <p>＜商業科＞</p> <p>・ビジネス基礎の科目の中で1学年全員が地域のイベントに参加し体験的な学習に取り組む。</p> <p>＜食物科＞</p> <p>・各学年が地域での行事やイベントに年1回は参加する。</p> <p>・2年生3年生は「ミニカフェ」を計画運営する。</p> <p>・小松島市との連携により、小松島の食材を</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①達成率100%</p> <p>＜商業科＞</p> <p>・参加率100%</p> <p>＜食物科＞</p> <p>・イベント参加 達成率 100%</p> <p>・「ミニカフェ」計画運営 達成率100%</p> <p>・小松島市との連携(材料の提供実施)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>・4学科の特徴を活かした学校行事が実施できるよう時間割等を配慮した。</p> <p>＜商業科＞</p> <p>・学んだことを生かし、各グループで工夫を凝らした店舗運営を行い、地域のイベントを盛り上げることができた。</p>	<p>○4学科の連携が図りやすいように行事や授業計画を配慮する。</p> <p>○4学科連携は、大変うまくいっており、それぞれの学科が連携して良いところを引き出せている。</p> <p>＜商業科＞</p> <p>・関係機関と連携を深め、継続した活動になるよう取り組んでいく。</p>

	<p>知り、活用し、地域の活性化を目指す。</p> <p><生活文化科> ・各学年が地域での行事やイベントに年1回参加する。</p> <p><福祉科> ・各学年が地域での行事やイベントに年1回は参加する。</p> <p>活動計画</p> <p>①学科の特徴を活かした文化祭行事や、公開授業、学校行事を計画し、生徒の積極的な参加を促す。</p> <p><商業科> ・地域のイベントでアントレプレナーフェアを計画運営し、地域経済の活性化を図る。</p> <p><食物科> ・2年生3年生は「ミニカフェ」を計画運営することにより、地産地消や生活習慣病予防食としてヘルシーメニューを提供することにより地域のQOLを向上する。 ・小松島市との連携により、小松島の食材を地域の活性化を目指す。</p> <p><生活文化科> ・はちはち狸まつりでのファッションショーや地元施設やイベントでのファッションショーに参加する。</p> <p><福祉科> ・1年生 養護老人ホーム文化祭への参加、高齢者との交流。 ・2年生 はちはち狸祭りへの協力、学習成果の披露。 ・3年生 施設への介護ボランティア、イベントへの参加協力。ふれあい看護体験への参加による医療専門職との交流。</p>	<p><生活文化科> 達成率100%</p> <p><福祉科> 達成率100%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①各科の特徴を活かすとともに4学科が連携して実施することができた。</p> <p><商業科> ・1年生全員が参加し、各グループで工夫を凝らした店舗運営を行った。</p> <p><食物科> ・1年生は地域の小学校の親子を対象に「親子食育教室」を実施した。 ・2年生3年生は一回ずつ「ミニカフェ」を担当し企画運営調理と全般を受け持った。 ・ミニカフェにおいて小松島市の食材を活用した。</p> <p><生活文化科> ・はちはち狸まつり、ファッションショー、藍染め作品販売を実施する。 ・千歳苑、ひのみね総合療育センター、松寿園、ファッションショーを実施する。 ・服デ全国大会、ファッションショーを実施する。 ・産業教育展、ファッションショー、藍染め作品販売を実施する。</p> <p><福祉科> ・学年により多少はあるが、予定通り年1回以上参加できている。 1年介護実習 地域の11施設にて実施。 2年介護実習 地域の11施設にて実施。 はちはち狸まつり 養護老人ホーム文化祭に参加し阿波踊り体操披露。 産業教育交流展への参加。 3年介護実習 地域の8施設にて実施。 ふれあい看護体験にて医療職と交流。 産業教育交流展における意見体験発表に参加。</p>	<p>・次年度に続く活動になるよう関係機関と連携を深めていきたい。</p> <p><食物科> ・年4回のミニカフェでは、担当クラスが調理企画等全般に加えて、他のクラスが販売物で工夫して協力することが出来た。 ・小松島市から食材（米・オクラ等）をいただき、地域の特産品を知ることができ、活用することができた。</p> <p><生活文化科> ・藍染製品の販売では、自分たちが染色し製作したものを自分たちで説明しつつ販売したので知識の定着・発信力養うことができた。 ・ファッションショーでは、年8回実施し生徒たちが一つにまとまり一生懸命取り組み、学習の成果を披露することができた。</p> <p><福祉科> ・学年により多少はあるが、予定通り年1回以上参加できている。</p>	<p>○ミニカフェは、大変素晴らしい活動であるが、待機場所の整備や購入方法（往復はがきでの対応など）配慮が必要である。</p> <p>○ファッションショーの地域の福祉施設での開催など素晴らしい活動である。</p>	<p><食物科> ・ミニカフェで小松島市との連携ができるよう内容を検討していきたい。</p> <p><生活文化科> ・地域の福祉施設でのファッションショー開催を今後も継続できるように福祉科と連携して取り組んでいきたい。</p> <p><福祉科> ・交流施設を増やしていけるよう計画する。</p>
--	---	--	---	--	---

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針	
5 いじめのない教育環境づくりを進めるとともに、人権問題解決に向けて自主的・主体的に取り組む生徒の育成を図る。	(1)いじめのない教育環境づくりを進める。 [生徒指導課] [教育相談・研修課]	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	○生徒が安心して学べる環境づくりに引き続き取り組んでほしい。	○学校生活アンケートを十分に活用し、生徒の現状把握に取り組む。また、生徒が相談しやすい環境を整え、安心感のある学校生活が送れるように努める。
		①生徒対象の学校生活アンケートを年1回以上実施する。	①2学期末に「学校生活アンケート（携帯電話の使用状況・いじめの実態把握）」を行った。	(評定) A		
		②教育相談室において、昼休みを中心に個別の教育相談活動を展開する。特に問題のある生徒など活動記録に記入する。	②耐震工事のため閉室時以外は、ほぼ閉室し記録を作成した。	(所見) ・「学校生活アンケート」を実施し、生徒の中には、日常生活の中に不安や不満を抱えている者もいたが、いじめ等による学校生活の不安は出ていなかった。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①生徒の学校生活の実態を把握し、いじめの未然防止に取り組む。	①「学校生活アンケート」を実施し、担任及び学年団でいじめ等、学校生活に不安を抱えている生徒がいないか確認した。			
		②教育相談室において、昼休みを中心に生徒	②耐震工事のため、6～10月まで閉室できなかった。3年生が中心の使用となった。			

		の自由な入室を促し、個別の教育相談活動を展開し、教育相談室記録をつけ、各担当者の連携を図るとともに、いじめの早期発見に努める。			
(2)「徳島県人権教育推進方針」に基づき、すべての人の人権が尊重される社会の実現に向け、人権教育を推進する。 〔人権教育課〕 〔各学年〕	評価指標	①学校評価に関するアンケートの『学校はすべての教育活動において、人権に配慮した指導を行っている』が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで80%以上にする。 ②学校評価に関するアンケートの『職員に対する人権教育研修は、指導力の向上に役立っている』が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで70%以上にする。	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A	○引き続き取組を継続していく必要がある。 ○様々な人権問題に対応できる年間計画を作成する。 ＜1学年＞ ・出身中学の人権学習に対する温度差があるため、日頃からのホームルーム運営の善し悪しが鍵となる。まずはホームルームの中で、誰一人人権が侵されていないという雰囲気づくりを大切にしていきたい。 ＜2学年＞ ・社会に存在するいろいろな差別を学習ことにより、直面した時に的確に対応できる力をつけさせる。 ＜3学年＞ ・鋭い人権感覚を身につけ、差別は絶対に許さないという思いのもと、今後社会で直面する差別や不合理に対し、正しい行動がとれる人間に育てる。
	活動計画	①各学年、全教科において、人権教育の視点を持たせた授業を実施する。在学中に、「徳島県人権教育推進方針」に基づいた個人人権課題を積極的に学習させるよう工夫する。 ②人権教育課員、新規転入職員を中心に識字学級に参加し、地域との交流の機会をもつ。「セクシュアルハラスメント防止規程」の遵守を職員に徹底する。	活動計画の実施状況	(所見) ・年間計画は、「水平社宣言」から「メディアリテラシー」まで、幅広く学習することができている。 ＜1学年＞ ・出身中学校の違いにより人権問題に対する意識に温度差を感じた。また、ハンセン病に関する課題では、講演者の生の声で生徒にその現実を伝えることができたため、習熟度は高かった。 ＜2学年＞ ・題目は必要に応じて順番を入れ替えた。第2回「解放令」は理解しやすいように、DVD視聴を実施したが好評であった。 ＜3学年＞ ・人権教育を学ぶ機会が最後になることも理解させも、社会で差別に直面した時に、正しい行動がとれる教育を行った。	
(3)人権の意義や重要性を知識として確実に身につけさせるとともに、学んだことを行動に結びつける実践力を育成する。 〔人権教育課〕	評価指標	①学校評価に関するアンケートの『人権ホームルーム活動や人権教育講演会等を通じて、人権問題解決への意識が高まっている』が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つで80%以上にする。	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A	○展示やメッセージによる啓発は効果的である。 ○人権問題講演会を、新たな分野の講師に依頼する。 ○人権週間、展示、生徒作品発表会などは、継続する。
	活動計画	①人権週間、松西祭での人権展、人権講演会などの機会を利用し、全ての生徒が人権について考える。 ②「いのち輝くメッセージ」の生徒作品を発表する機会を2学期末に設ける。	活動計画の実施状況	(所見) ・作品発表会や講演会では、意見や講演を熱心に聞く生徒の姿が見られた。 ②12月17日に「いのち輝くメッセージ」生徒作品発表会を実施した。	

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
6 生命尊重を基盤とする安全教育を推進し、事故防止に強化を図る。	(1)安全対策を推進し、事故防止に努め、防災・減災対策の強化を図る。 〔環境教育課〕	評価指標	評価指標による達成度	総合評価 (評定) A	○地震等発生時の食物科生徒による炊き出しや福祉科生徒の生活支援など、専門性を活かした被災住民への支援協力について検討してみようか。 ○高校生防災士養成に、積極的に参加する生徒がいるのは素晴らしい。
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ・様々な防災訓練・防災研修を実施し、生徒・教職員の意識を少し高めることができた。	
		①生徒への防災教育と教職員意識向上等を図り防災意識を高める。	①達成率100%		
		①防災計画書を作成し、教職員の意識の高揚を図る。 ②1学期に防災対策の避難訓練と救出救護訓練を実施し、避難経路や防災に関する意識	①防災計画書を作成し、計画した活動計画を実施することができた。 ②防災対策の防災訓練を5月29日に実施した。		

		を高める。 ③ 2学期に地震時の津波に関する避難訓練等を実施し、避難経路を確認するとともに、防災に関する意識を高める。 ④ 防災ボランティア講師による講演回を実施する。	③ 10月に3年生全員が防災研究として地震のビデオ、救急法、救助搬送及び応急手当の講習をクラス単位で実施した。 ④ 10月30日に、県の防災センターによる地震の防災学習を実施した。		
--	--	--	---	--	--

重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
7 保護者との連携をより深めるとともに、地域に開かれた学校づくりに努める。	(1) P T A活動の充実・促進に努め、教育活動全般について、保護者との密接な連携を図る。 [総務課]	<u>評価指標</u> ① P T A総会の参加者の割合を4割以上にするとともに、次年度に向けてさらに向上させる。 ② P T A研修会の内容を検討し、年間で1回実施する。 ③ 各HRの役員や評議員を中心とした会合を年1回以上実施する。 <u>活動計画</u> ① 総会と参観授業についての内容を保護者のニーズに合ったものとなるように工夫し、周知徹底させる。 ② 年度当初の役員会・評議員会で検討し、希望に沿った研修になるよう計画し実施する。 ③ P T A総会後や夏期休業中を活用して保護者との情報交換を行う。	<u>評価指標による達成度</u> ① 達成率70% (目標参加者が230人に対し、参加者は、158名であった。) ----- ② 達成率100% ----- ③ 達成率100% <u>活動計画の実施状況</u> ① 参観授業・総会・昼食(集団給食またはサンドウィッチと飲み物)・面談を実施した。 ② 大島青松園訪問(8月26日(水) P T A 8名を含む18名参加)を実施した。 ③ P T A総会後、新・旧役員、評議員で会合を開催した。	<u>総合評価</u> (評定) A ----- (所見) ・ P T A総会への参加率を向上させる必要を感じる。 P T A活動へ参加していただける方は多いが、参加者が第3学年と固定しており、学年を越えた交流を企画する必要がある。魅力があり参加しやすい雰囲気作りを考えたい。	○頑張っていることが充分伝わってこない。本年度は、耐震工事もあり、5月の P T A 総会の際の公開授業だけとなったようだが、来年度は、オープンスクールなどを積極的に進めてほしい。	○ P T A総会では、参加率を上げる。 P T A役員や評議員はもちろんのこと、全 P T Aが参加しやすい雰囲気作りに努める。
	(2) ホームページの更新回数を増やし、保護者や地域の方に本校の活動を理解してもらえるよう努めるとともに、緊急時や、学校行事等、常に有益で新しい情報発信を行う。 [教務課：情報]	<u>評価指標</u> ① ホームページのアクセス数を10%増やす。 <u>活動計画</u> ① 全ての教職員がホームページの更新にかかわり、各科、課、学年、部活動等から有益な情報をリアルタイムで発信する。 ② P T A総会等を通じて本校のホームページへのアクセス方法について理解してもらえるよう努める。 ③ 保護者に対してアンケート下を実施し、認知度を調べたり、どのような情報が求められているか把握する。	<u>評価指標による達成度</u> ① 達成率100% (4月～12月までのアクセス数が122,304回から176,002回に増加した。) <u>活動計画の実施状況</u> ① ホームページ作成講習会を実施したほか、適宜ホームページの更新を各担当に促した。 ② P T A総会において、ホームページの紹介とQRコードの配布の配布をし、保護者に周知した。 ③ P T A総会時にアンケート下調査を実施し、保護者にニーズに応えることが出来た。	<u>総合評価</u> (評定) A ----- (所見) ・ 8月以降のホームページアクセス数は前年度を大きく上回っており、順調に伸びている。今後も目標を達成できるよう、頻繁な更新と保護者などの関係者の要望に応えることができるよう工夫していく。	○ホームページに卒業生の活躍を載せるなどして、同窓会の活性化の一助としてはどうか。	○ホームページは、中学生が進路選択の参考としていることも多いため、部活動や学校行事の更新を支援し、最新の情報発信に努めたい。